

2021年「京畿・超低信用貸付」事業

事務局長 チェ・ヒョンウク

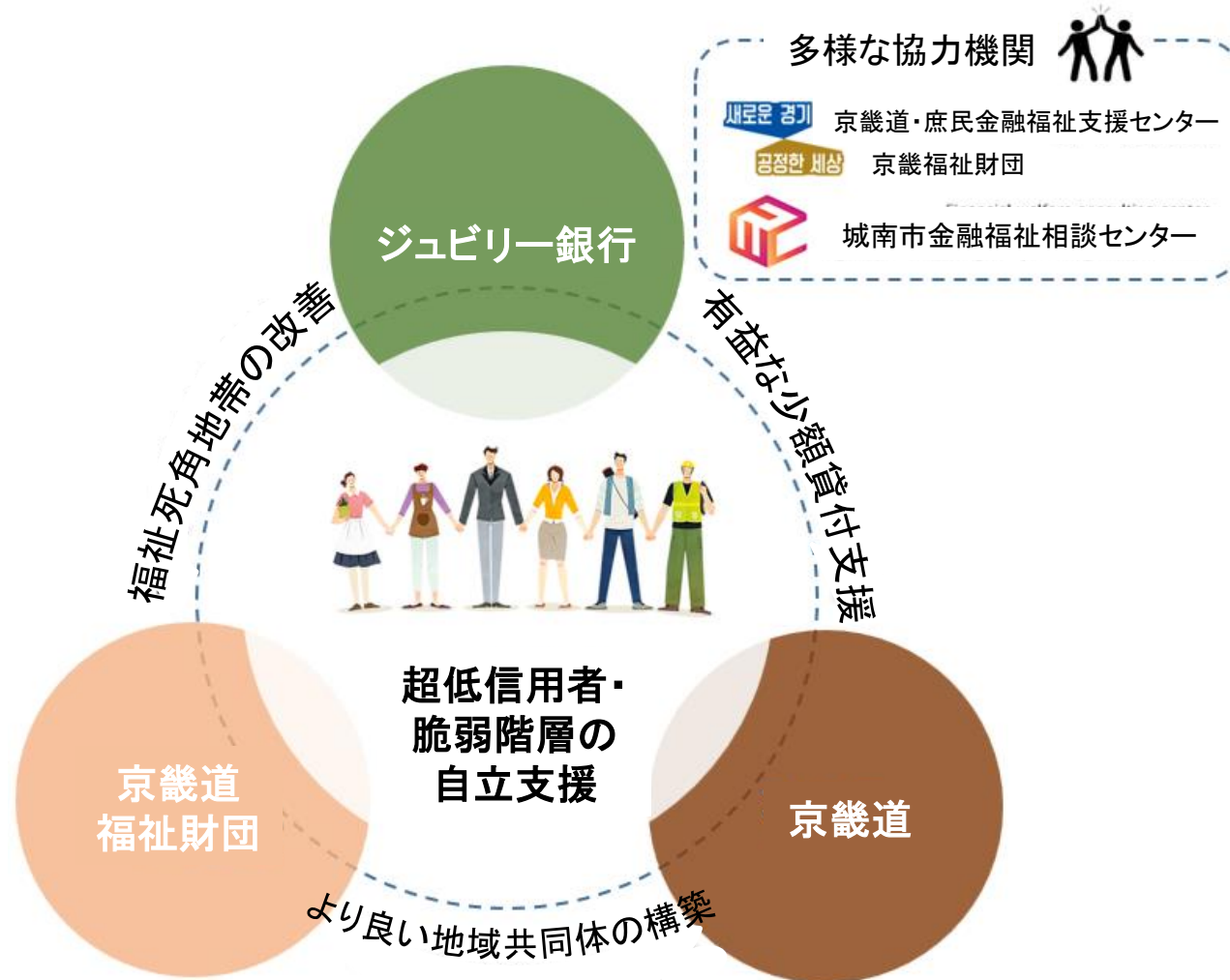


사단 법인 롤링주빌리
ROLLING JUBILEE

□事業目的および目標

- 目的：京畿道内の超低信用者や低所得者など、金融疎外階層への緊急少額貸付支援を通して社会的・経済的自立の機会を付与し、専門カウンセリングを通じた個別型福祉サービスを提供することで地域社会の発展に寄与する
- 目標：超低信用者や低所得者など金融疎外階層の財務状態を診断、解決法を模索し、対象者が社会・経済活動を円滑に行えるよう緊急少額貸付支援と福祉サービスの連携などを通じ財務問題を改善、経済的自立と更生の機会を設ける

事業名：2021年「京畿・超低信用貸付」事業



□ 事業推進地域：京畿道

遂行機関	管轄地域	備考
(社) ローリング・ジュビリー	水原、龍仁、城南、華城、安山、平沢、広州、河南、軍浦、烏山、利川、安城、義王、楊平、ヨジュ	15の地域
(社) 共に創る世界 (社会連帯銀行)	高陽、九里、南楊州、加平、議政府、抱川、楊州、東豆川、パジュ、ヨンチョン郡、安養、果川、始興、富川、光明、金浦	16の地域

□ 事業遂行方法

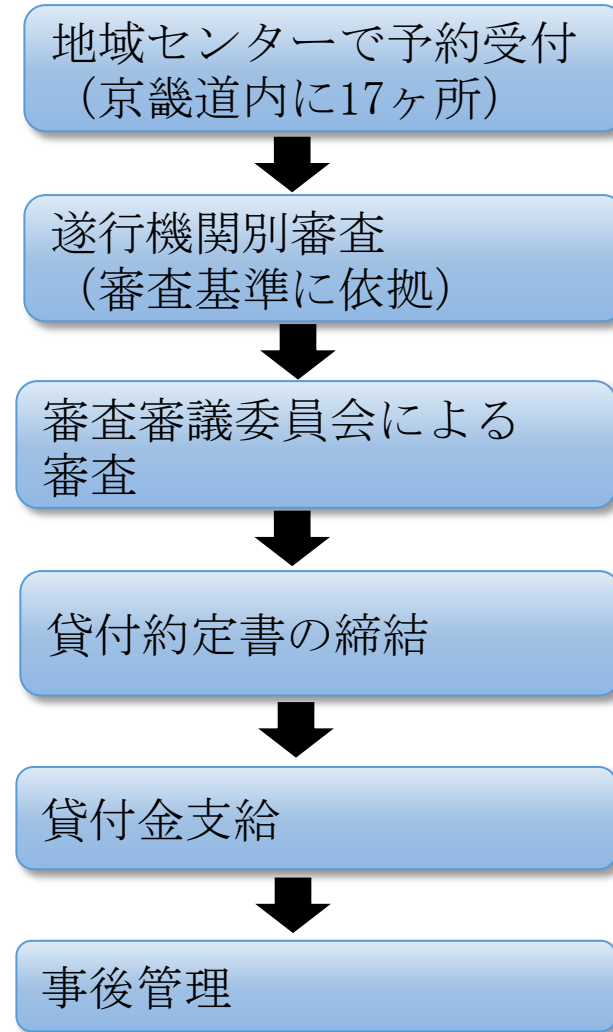
▷ 個別型財務コンサルティングの推進と連携した随時受付運営体制

- 上半期：拠点で現場受付および庶民金融福祉支援センターでオンライン予約受付
- 下半期：京畿・庶民金融福祉支援センター（計17ヶ所）でオンライン予約受付

事業の支援対象者および取扱商品

区分	支援対象者	貸付限度額	
資格要件	- 満19歳以上で住民登録上京畿道に居住し、低信用者（NICE724点以下またはKCB655点以下）として貸付を申請した者 ※ 社会配慮階層はNICE744点以下、KCB700点以下	-	
貸付商品	不法私金融被害者	京畿道の不法私金融被害申告センターに被害申告した者	300万ウォン
	生計型危機	単純罰金型宣告を受けた罰金納付予定者、労役中などで生計の危機にある者（略式命令のコピーまたは判決文のコピー提出）	300万ウォン
	信用危機青年	信用回復委員会による債務調整から6ヶ月以上経過している誠実償還者	300万ウォン
	学資金長期延滞者	韓国奨学財団の学資金貸付が6ヶ月以上長期延滞中の者	300万ウォン
	審査貸付	貸付用途、返済計画、申請者の現況、緊急性、返済可能性など審査対象者	300万ウォンを上限とした範囲内

□ 貸付の支給手続き



- 京畿・庶民金融福祉支援センターでオンライン予約受付
- 審査基準に基づいた個別審査（電話によるカウンセリング）
- 内部にて審議委員会開催（外部審査委員含む）
- 非対面による約定書（電子約定）締結
- 対面による約定書締結（高齢者など地域センター訪問）
- 本人名義または家族名義の口座に入金（大量振替）
- 財務・債務相談など、個別型総合金融福祉相談サービス提供

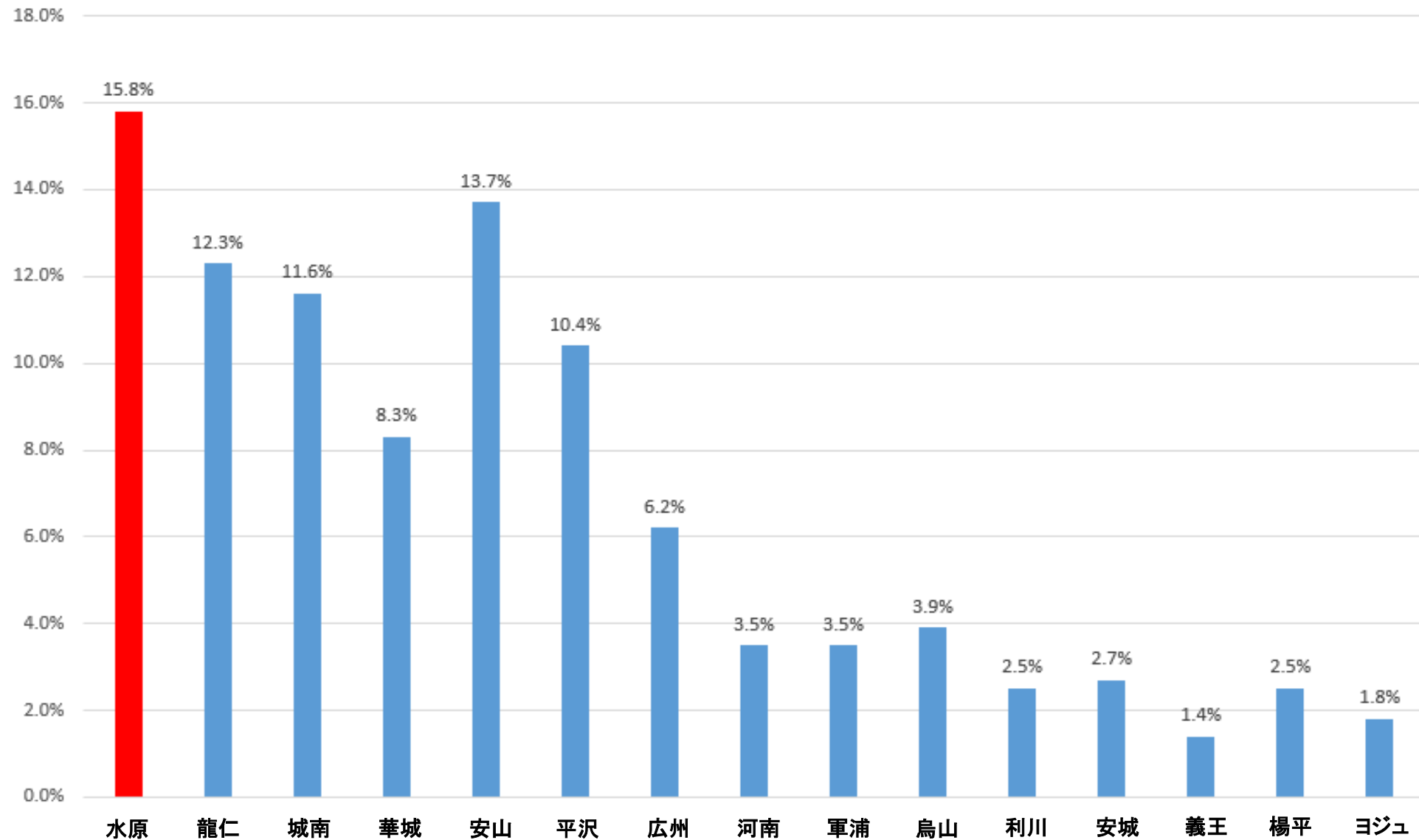
1. 事業予算および執行現況（2021年9月30日現在）（単位：百万ウォン）

区分		予算配分額	執行額（貸付）	執行後残額	備考
事業費 （貸付）	上半期	11,000	10,279	721	執行完了(3回目)
	下半期	12,500	3,295	9,205	進行中
	合計	23,500	13,574	9,926	

2. 貸付科目別取扱現況（2021年9月30日現在）（単位：百万ウォン）

区分	貸付科目	支給人数			支給額	備考	
		男性	女性	合計			
上半期事業 2021.03.29.~05.31	生計型危機	24	10	34	102	支給人数：6,341名 支給額：10,279百万ウォン	
	信用危機青年	13	9	22	66		
	審査貸付		3,670	2,615	6,285		10,111
		100万ウォン	2,087	1,462	3,549		3,549
		200万ウォン	978	668	1,646		3,292
	300万ウォン	605	485	1,090	3,270		
下半期事業 2021.07.27.~09.30	不法私金融被害者	9	2	11	33	支給人数：1,961名 支給額：3,295百万ウォン	
	生計型危機	5	2	7	21		
	信用危機青年	2	0	2	6		
	学資金長期延滞者	0	2	2	6		
	審査貸付		1,139	800	1,939		3,229
		100万ウォン	544	392	936		936
		200万ウォン	436	280	716		1,432
		300万ウォン	159	128	287		861
上・下半期貸付金支給合計		4,862	3,440	8,302	13,574		

3. 貸付申請者の地域別現況



3. 貸付申請者の地域別現況

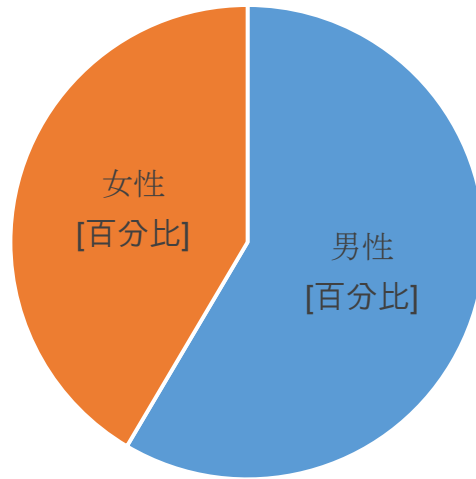
区分	水原	龍仁	城南	華城	安山	平沢	広州	河南	軍浦	烏山	利川	安城	義王	楊平	ヨジュ	合計
人口現況	118万	108万	93万	87万	65万	55万	38万	31万	27万	23万	22万	19万	16万	12万	11万	725万
審査	1,303	1,020	948	691	1,126	861	520	291	287	318	208	222	112	210	154	8,271
不私	3	1	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	11
生計	7	2	11	3	7	5	0	1	0	1	0	2	1	1	0	41
信用	3	1	6	1	5	3	1	1	1	2	0	0	0	0	0	24
学資金	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
小計	1,316	1,025	966	697	1,140	870	521	293	290	322	208	224	113	211	154	8,350
比率	15.8	12.3	11.6	8.3	13.7	10.4	6.2	3.5	3.5	3.9	2.5	2.7	1.4	2.5	1.8	100%

貸付申請者の地域別分布を見ると、水原地域15.8%、安山地域13.7%と人口規模に比例し、全体的に水原が最も高い申請者比率を表している。

総貸付申請者数8,350名中、水原、龍仁、城南、華城、安山、平沢の人口規模が大きい6つの地域の申請者数が6,014名と、全体の比重の72%を占めている。

3-1. 貸付申請者の性別・年代別現況

[申請者の性別]



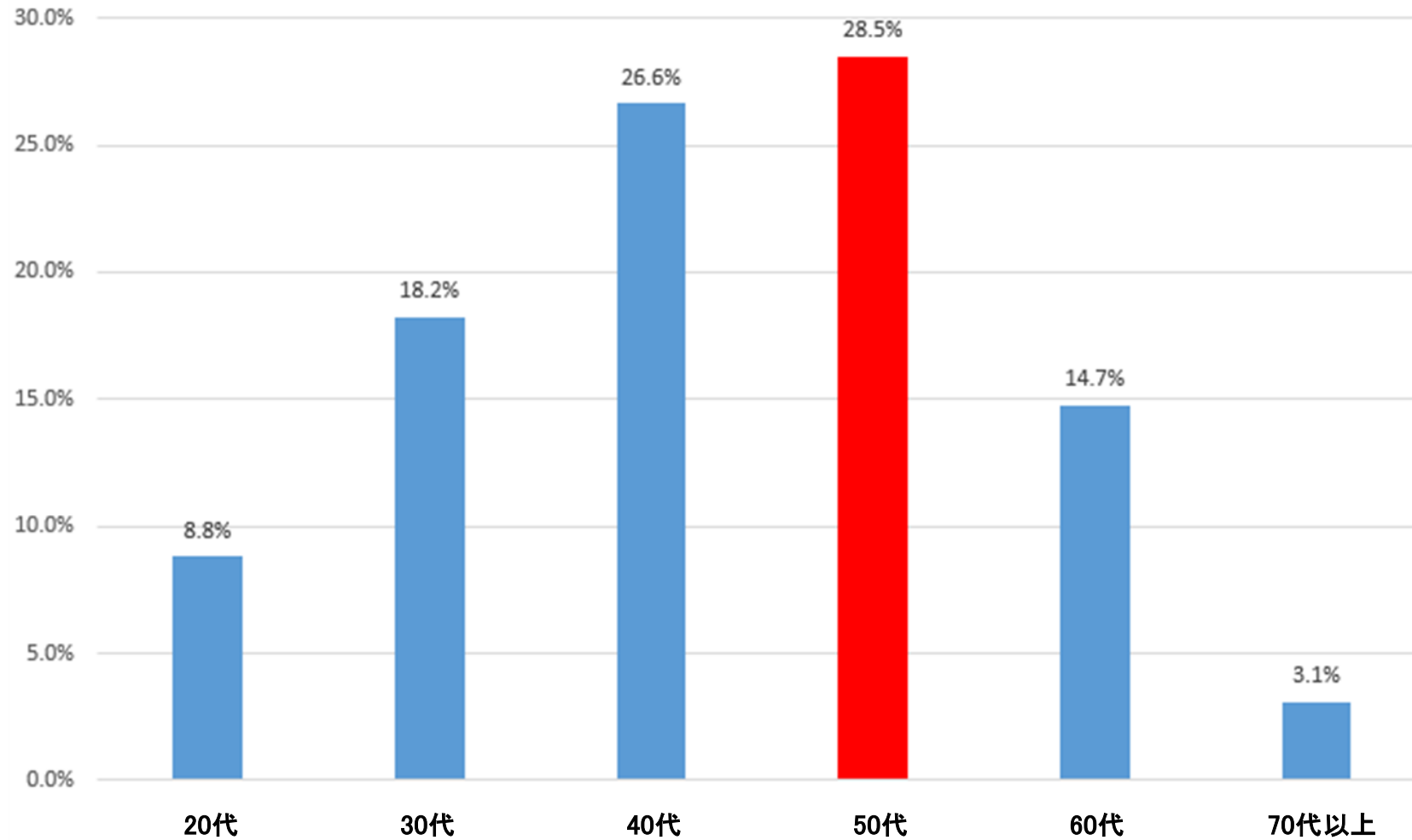
[年代・性別]

年代	男性	女性
20代	5.7%	3.1%
30代	10.8%	7.4%
40代	14.7%	11.9%
50代	16.8%	11.7%
60代	8.8%	6.0%
70代以上	1.8%	1.3%

貸付申請者の性別は、男性が58.5%、女性が41.5%と、約6:4の比率で男性が相対的に多少高い比率となっている。

年代別の性別の内訳を見ると、男性の場合50代が16.8%と最も高く、その次が40代で14.7%、女性の場合は40代が11.9%、50代が11.7%という順に大きな比重を占めている。

3-1. 貸付申請者の性別・年代別現況

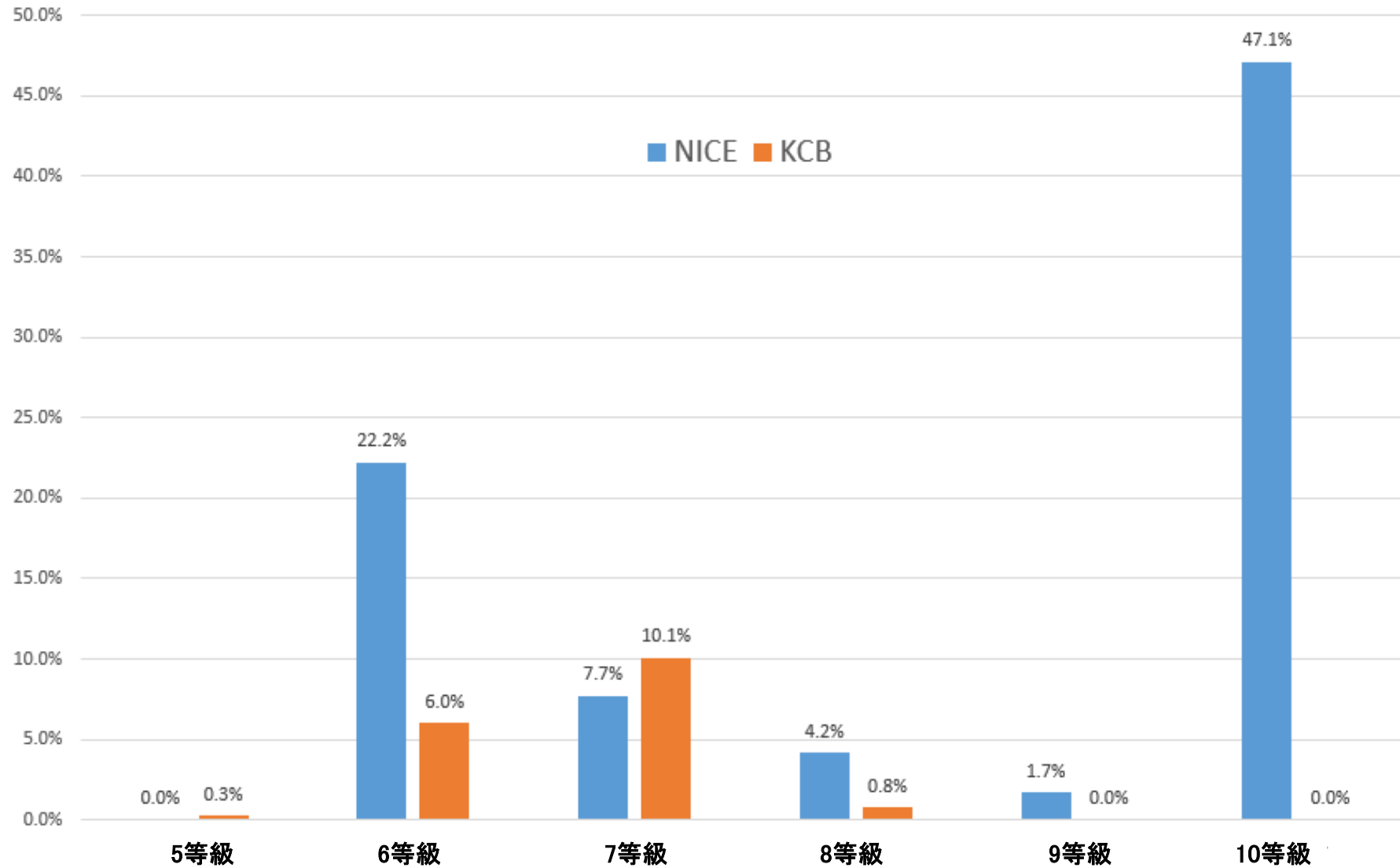


3-1. 貸付申請者の性別・年代別現況

区分	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
申請者	736名	1,522名	2,224名	2,379名	1,231名	258名
	8.8%	18.2%	26.6%	28.5%	14.7%	3.1%

貸付申請者を年代別に見ると、50代が28.5%と最も高く、次いで40代が26.6%と、経済の主軸を担う40～50代が全体の半分以上の55.1%を占めており、コロナによる社会の全般的な景気沈滞の影響で、社会活動・経済活動の中核的な役割を担うべき世代が、経済危機により苦しい状況に置かれていることがわかる。遂行機関および庶民金融センターでも持続的に40～50代を対象とした債務相談・福祉連携相談を集中的に行い、経済的更生を図る解決に向けて力を合わせる必要があるだろう。

3-2. 貸付申請者の信用点数現況



3-2. 貸付申請者の信用点数現況

区分		5等級	6等級	7等級	8等級	9等級	10等級	合計
NICE	信用点数	750点~804点	665点~749点	600点~664点	515点~599点	445点~514点	0点~444点	0点~744点
	人数	0名	1,733名	894名	734名	557名	2,767名	6,685名
	比率	0%	20.8%	10.7%	8.8%	6.7%	33.1%	80.1%
KCB	信用点数	698点~767点	630点~697点	530点~629点	454点~529点	335点~453点	0点~334点	0点~700点
	人数	45名	558名	908名	111名	11名	32名	1,665名
	比率	0.5%	6.7%	10.9%	1.3%	0.1%	0.4%	19.9%
合計		45名	2,291名	1,802名	845名	568名	2,799名	8,350名
		0.5%	27.5%	21.6%	10.1%	6.8%	33.5%	100%

3-2. 貸付申請者の信用点数現況

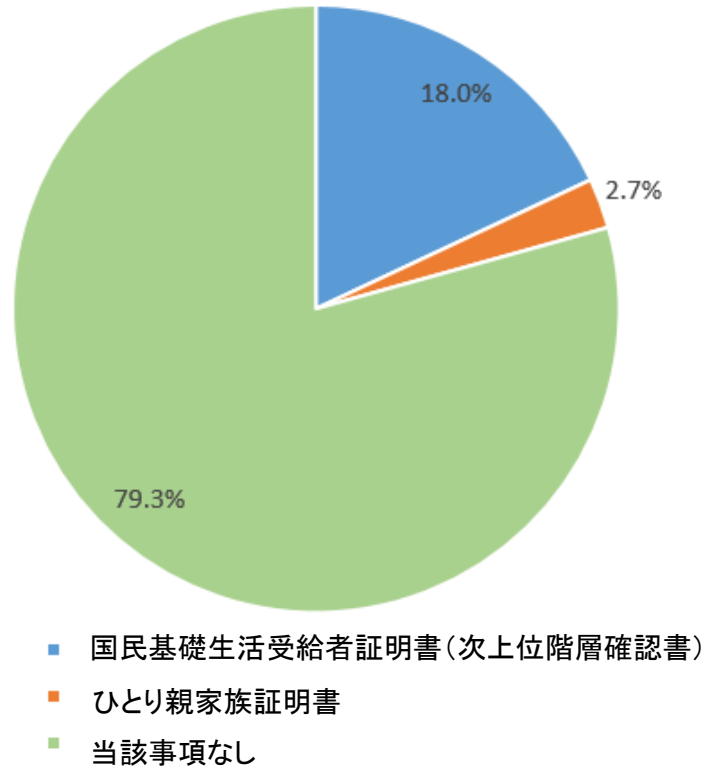
区分		5等級	6等級	7等級	8等級	9等級	10等級	合計
20代	人数	3名	196名	190名	96名	49名	202名	736名
	比率	0.4%	26.6%	25.8%	13.0%	6.7%	27.4%	100%
30代	人数	2名	379名	390名	162名	103名	486名	1,522名
	比率	0.1%	24.9%	25.6%	10.6%	6.8%	31.9%	100%
40代	人数	7名	592名	492名	234名	174名	725名	2,224名
	比率	0.3%	26.6%	22.1%	10.5%	7.8%	32.6%	100%
50代	人数	9名	630名	482名	228名	151名	879名	2,379名
	比率	0.4%	26.5%	20.3%	9.6%	6.3%	36.9%	100%
60代	人数	12名	373名	214名	108名	41名	443名	1,231名
	比率	1.0%	30.3%	17.4%	8.8%	6.6%	36.0%	100%
70代以上	人数	12名	121名	34名	17名	10名	64名	258名
	比率	4.7%	46.9%	13.2%	6.6%	3.9%	24.8%	100%
合計		45名	2,291名	1,802名	845名	568名	2,799名	8,350名

3-2. 貸付申請者の信用点数現況

貸付申請者の信用点数の分布図を見ると、前年度時点で10等級に該当する人数が2,799名と全体の33.5%を占め、次いで6等級に該当する人数が2,291名で27.5%と、2番目に多い結果となった。

全年代を通して10等級に該当する申請者の比率がおおむね最も高く（70代は6等級の46.9%）、6等級の比率がそれに続く結果となったが、前年度の信用等級制から信用点数制への変更に伴い、6等級に該当する低所得層が貸付金支援の恩恵を受けられるようになったことが大きいといえる。

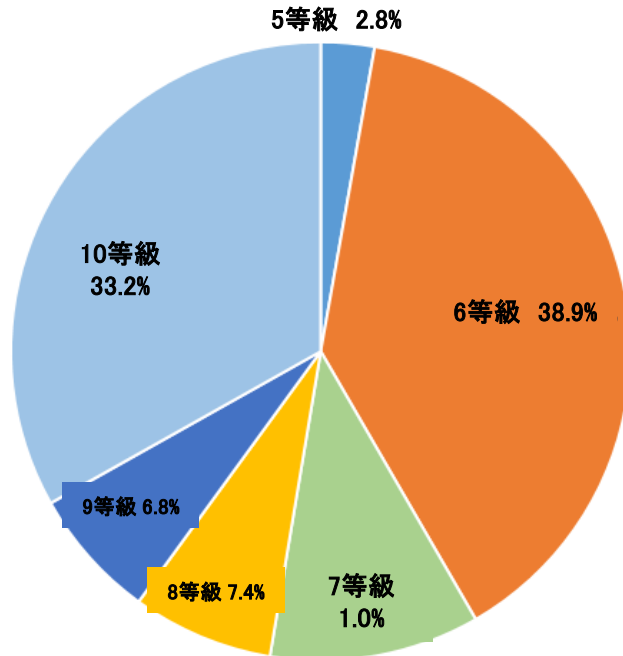
3-3. 貸付申請者の社会配慮階層現況



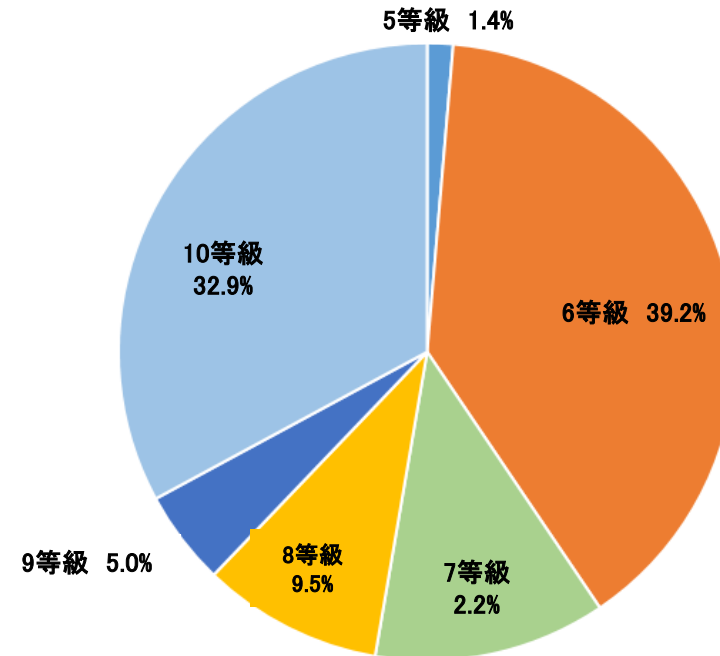
区分	人数	比率
基礎生活受給	1,505名	18.0%
ひとり親家族	222名	2.7%
該当事項なし	6,623名	79.3%

3-3. 貸付申請者の社会配慮階層現況

[基礎生活受給者の信用等級現況]
1,505名基準



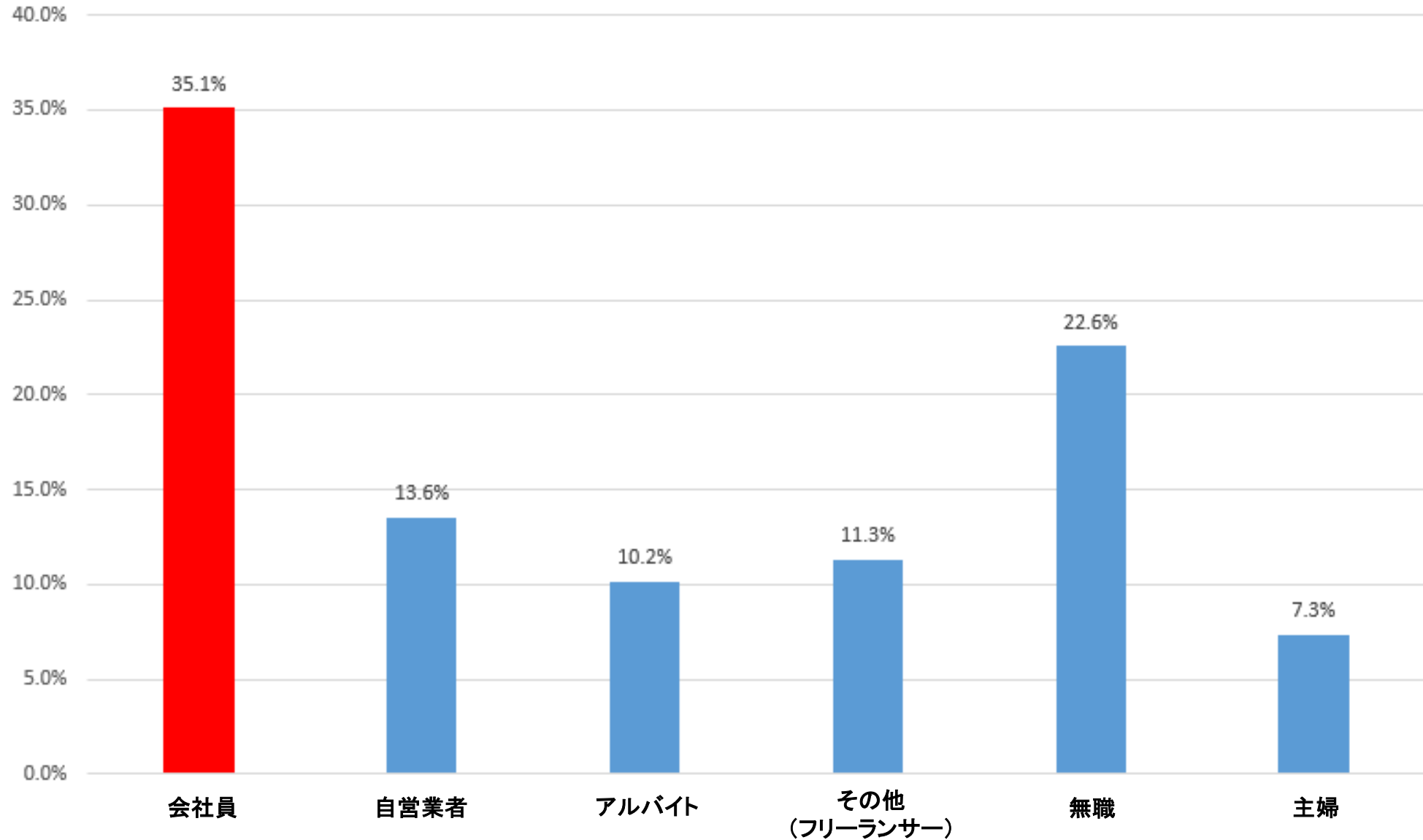
[ひとり親家族の信用等級現況]
222名基準



※社会配慮階層：国民基礎生活受給者、次上位階層、ひとり親家族

2021年度からの社会配慮階層に対する支援拡大に伴い、全申請者の20.7%に該当する1,727名が申請したが、基礎生活受給者の申請者1,505名のうち信用等級が6等級に該当する人数が38.9%を占め、10等級の該当者も33.2%を占めるなど、基礎生活受給者は6等級と10等級に該当する申請者が全体の約72%を占める結果となった。

3-4. 貸付申請者の勤労活動現況



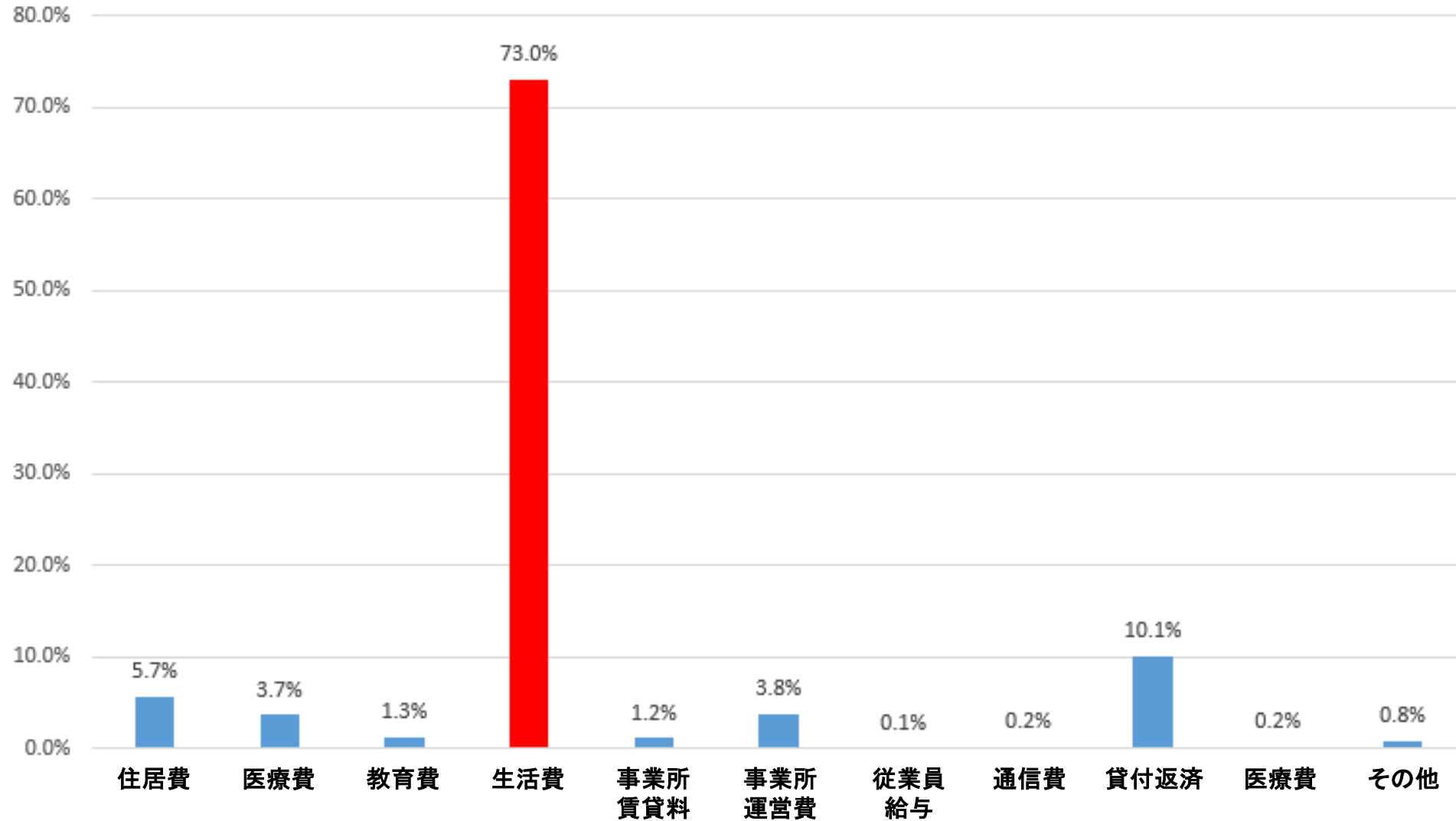
3-4. 貸付申請者の勤労活動現況

区分		会社員	自営業者	アルバイト	その他（フリーランサー）	無職	主婦	合計
20代	人数	324名	41名	124名	54名	165名	28名	736名
	比率	44.0%	5.6%	16.8%	7.3%	22.4%	3.8%	100%
30代	人数	706名	204名	131名	154名	228名	99名	1,522名
	比率	46.4%	13.4%	8.6%	10.1%	15.0%	6.5%	100%
40代	人数	838名	352名	200名	259名	394名	181名	2,224名
	比率	37.7%	15.8%	9.0%	11.6%	17.7%	8.1%	100%
50代	人数	753名	339名	254名	335名	551名	147名	2,379名
	比率	31.7%	14.2%	10.7%	14.1%	23.2%	6.2%	100%
60代	人数	273名	172名	128名	128名	405名	125名	1,231名
	比率	22.2%	14.0%	10.4%	10.4%	32.9%	10.2%	100%
70代以上	人数	37名	24名	11名	13名	141名	32名	258名
	比率	14.3%	9.3%	4.3%	5.0%	54.7%	12.4%	100%
合計		2,931名	1,132名	848名	943名	1,884名	612名	8,350名
		35.1%	13.6%	10.2%	11.3%	22.6%	7.3%	100%

3-4. 貸付申請者の勤労活動現況

申請者の勤労活動現況を見ると、会社員が35.1%と比率が最も高く、次いでコロナによる失業・無職が22.6%という結果となったが、貸付金の返済管理が要求される無職・専業主婦の比率が29.9%となっており、これは社会全般におけるコロナの長期化による景気沈滞、働き口の不足、勤労条件の悪化などが影響していると思われる。

3-5. 貸付申請者の使用用途現況

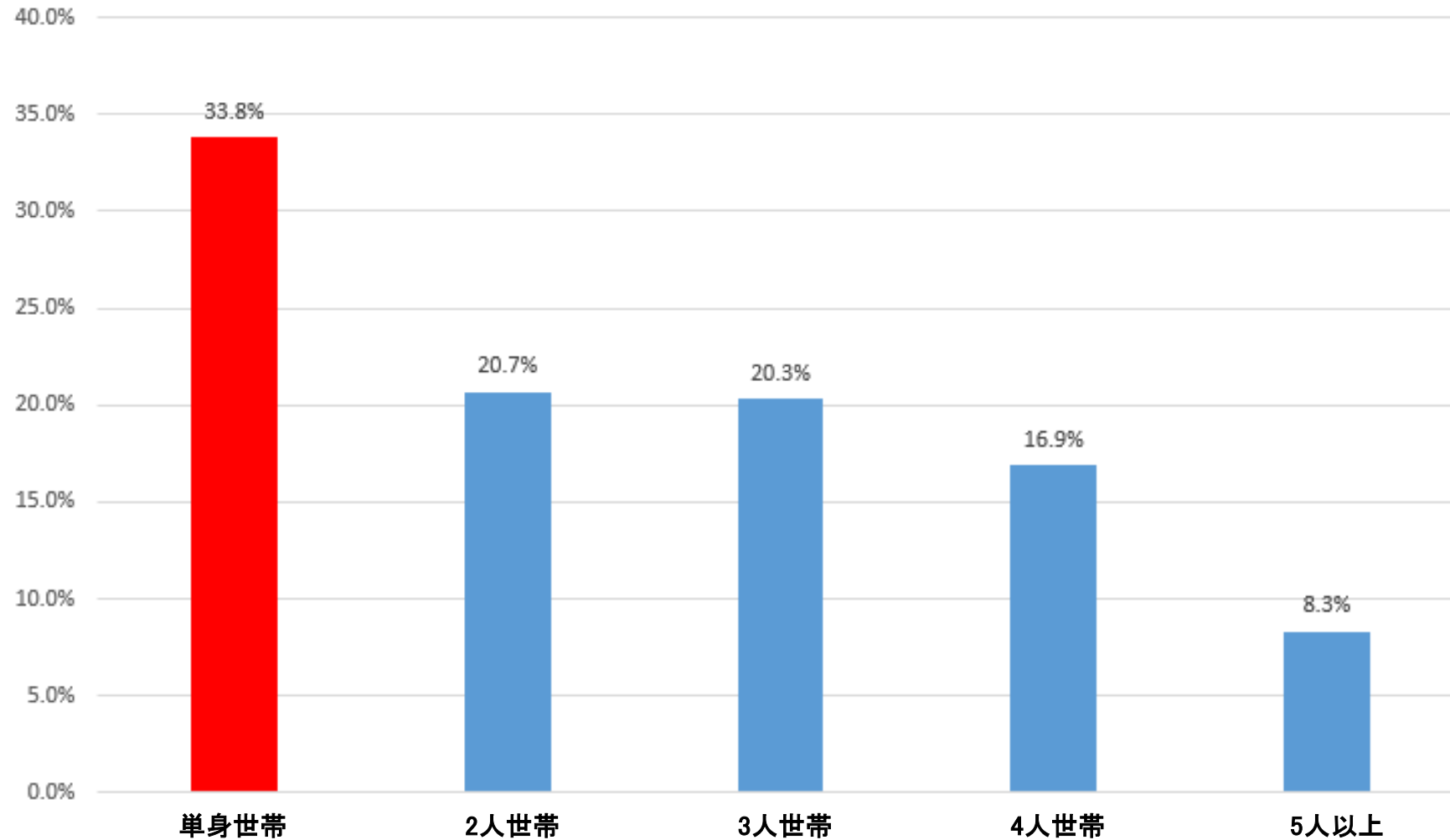


3-5. 貸付申請者の使用用途現況

区分	住居費	医療費	教育費	生活費	事業所 賃貸料	事業所 運営費	従業員 給与	通信費	貸付返済	保険料	その他
20代	32名	17名	11名	530名	2名	18名	0名	6名	113名	2名	5名
30代	67名	39名	14名	1,106名	16名	52名	2名	3名	211名	1名	11名
40代	107名	61名	36名	1,632名	21名	98名	3名	3名	233名	5名	25名
50代	142名	97名	44名	1,766名	28名	94名	3名	4名	180名	4名	17名
60代	106名	63名	4名	880名	26名	49名	0名	1名	93名	1名	8名
70代以上	18名	31名	0名	181名	5名	8名	0名	0名	13名	0名	2名
小計	472名	308名	109名	6,095名	98名	319名	8名	17名	843名	13名	68名
比率	5.7%	3.7%	1.3%	73.0%	1.2%	3.8%	0.1%	0.2%	10.1%	0.2%	0.8%

申請者の貸付金使用用途は生活費充当が約73%と最も多く、低所得層にとって基本生活費の捻出が最も困難な部分であることを示している一方、既存の貸付金返済が10.1%と2番目に多い結果となっており、高金利の負担や債務の圧迫が大きいことが推定される。また、使用用途が医療費であるケースが3.7%となっており、生計困難や生活費不足により適切な治療を必要な時期に受けられない申請者がいることが推測される。

3-6. 貸付申請者の世帯人数現況



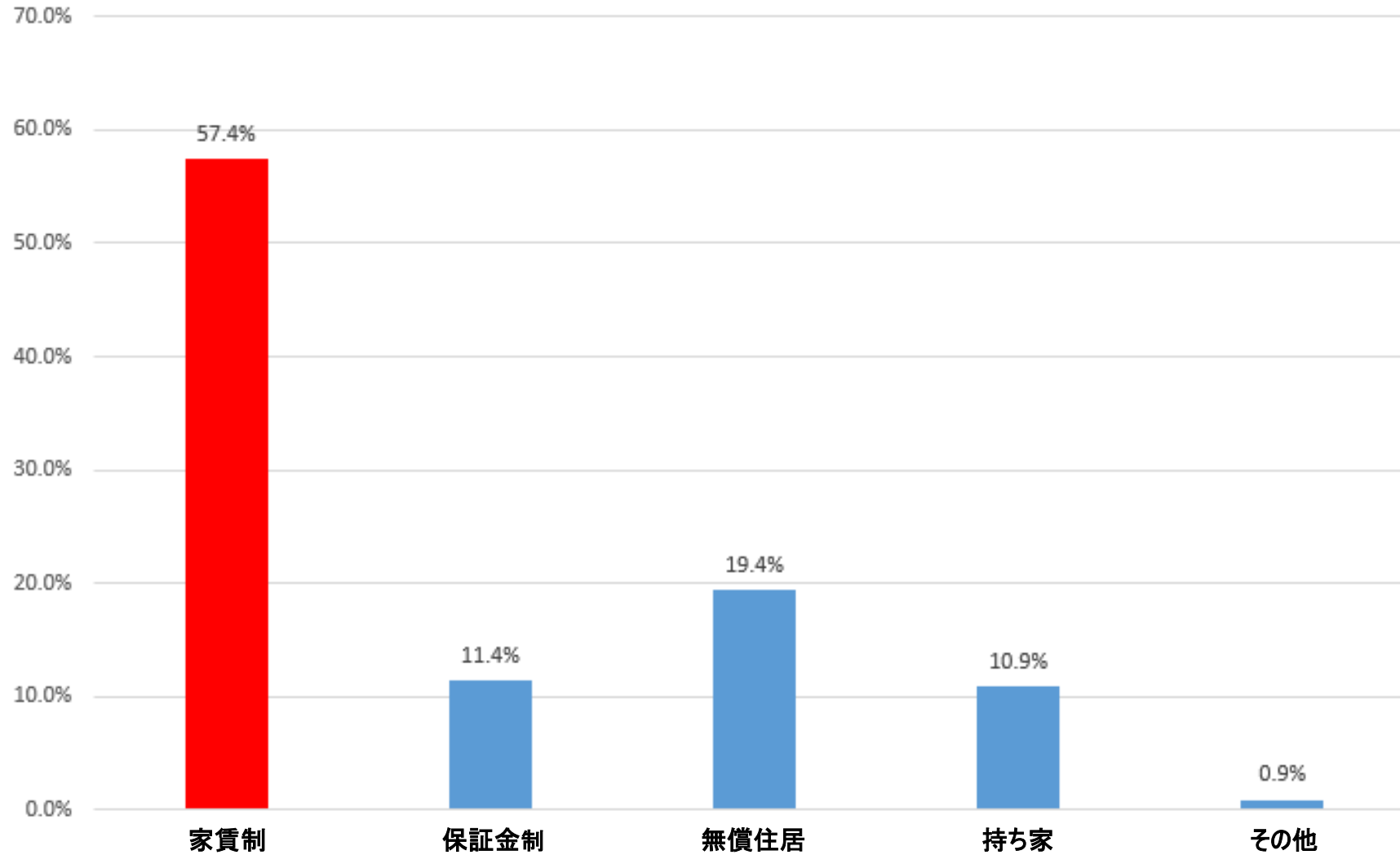
3-6. 貸付申請者の世帯人数現況

区分		単身世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人以上	合計
20代	人数	221名	135名	172名	144名	64名	736名
	比率	30.0%	18.3%	23.4%	19.6%	8.7%	100%
30代	人数	487名	304名	333名	277名	121名	1,522名
	比率	32.0%	20.0%	21.9%	18.2%	8.0%	100%
40代	人数	581名	376名	498名	481名	288名	2,224名
	比率	26.1%	16.9%	22.4%	21.6%	12.9%	100%
50代	人数	831名	504名	473名	404名	167名	2,379名
	比率	34.9%	21.2%	19.9%	17.0%	7.0%	100%
60代	人数	585名	335名	186名	92名	33名	1,231名
	比率	47.5%	27.2%	15.1%	7.5%	2.7%	100%
70代以上	人数	116名	78名	29名	14名	21名	258名
	比率	45.0%	30.2%	11.2%	5.4%	8.1%	100%
合計		2,821名	1,732名	1,691名	1,412名	694名	8,350名
		33.8%	20.7%	20.3%	16.9%	8.3%	100%

3-6. 貸付申請者の世帯人数現況

申請者の世帯人数現況を見ると、単身世帯の比率が33.8%と全年代を通して最も高く、年齢が上がるほど単身世帯の比率も高くなっていることから、独居高齢者の増加傾向と世帯人数に対する経済的困難を類推することができる。

3-7. 貸付申請者の住居現況



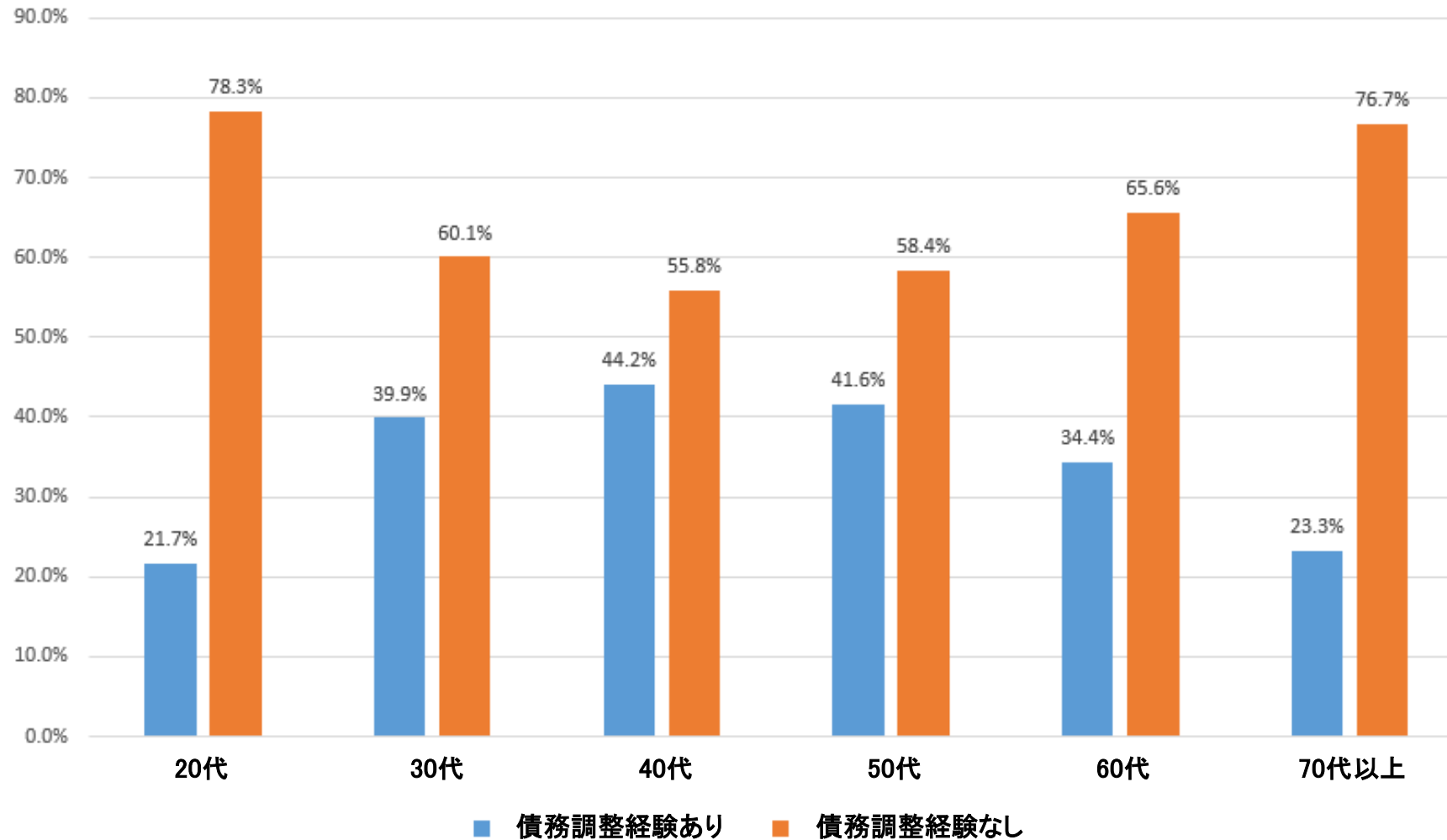
3-7. 貸付申請者の住居現況

区分		家賃制	保証金制	無償居住	持ち家	その他	合計
20代	人数	330名	113名	232名	52名	9名	736名
	比率	44.8%	15.4%	31.5%	7.1%	1.2%	100%
30代	人数	774名	195名	362名	179名	12名	1,522名
	比率	50.9%	12.8%	23.8%	11.8%	0.8%	100%
40代	人数	1295名	245名	386名	285名	13名	2,224名
	比率	58.2%	11.0%	17.4%	12.8%	0.6%	100%
50代	人数	1471名	228名	402名	254名	24名	2,379名
	比率	61.8%	9.6%	16.9%	10.7%	1.0%	100%
60代	人数	785名	125名	206名	106名	9名	1,231名
	比率	63.8%	10.2%	16.7%	8.6%	0.7%	100%
70代以上	人数	140名	44名	35名	34名	5名	258名
	比率	54.3%	17.1%	13.6%	13.2%	1.9%	100%
合計		4795名	950名	1623名	910名	72名	8,350名
		57.4%	11.4%	19.4%	10.9%	0.9%	100%

3-7. 貸付申請者の住居現況

申請者の住居現況を見ると、家賃制の比率が57.4%と最も高く、無償居住が19.4%でそれに続く結果となった。家賃制の比率は全年代を通して最も高いが、年齢が下がるほど無償居住の比率が上がることに青年層の住居問題が表れており、全般的に低信用および低所得により住居が不安定な状態にあると見られる。

3-8. 貸付申請者の債務調整利用現況



3-8. 貸付申請者の債務調整利用現況

区分		債務調整経験 あり	債務調整経験 なし	合計
20代	人数	160名	576名	736名
	比率	21.7%	78.3%	100%
30代	人数	608名	914名	1,522名
	比率	39.9%	60.1%	100%
40代	人数	982名	1,242名	2,224名
	比率	44.2%	55.8%	100%
50代	人数	990名	1,389名	2,379名
	比率	41.6%	58.4%	100%
60代	人数	424名	807名	1,231名
	比率	34.4%	65.6%	100%
70代以上	人数	60名	198名	258名
	比率	23.3%	76.7%	100%
合計		3,224名	5,126名	8,350名
		38.6%	61.4%	100%

3-8. 貸付申請者の債務調整利用現況

申請者の債務調整経験の有無は、「経験なし」の申請者が61.4%と「経験あり」の申請者38.6%より多いが、30～50代の債務調整経験者の比率は約40%以上となっており、経済活動が活発な年代を中心に公的または私的な債務調整が利用されていることがわかる。

4. コールセンターの運営現況

(単位：件数)

月	使用期間	コール区分	総コール数	単純照会	通話要請	通話数	コールバック
3月	03.23~03.31	インバウンド	14,388	4,820	9,568	7,796	775
		アウトバウンド	576			301	
4月	04.01~04.30	インバウンド	11,943	2,727	9,216	8,909	101
		アウトバウンド	7,402			4,632	
5月	05.01~05.31	インバウンド	24,212	12,363	11,849	10,161	562
		アウトバウンド	2,452			1,520	
6月	06.01~06.30	インバウンド	1,411	330	1,081	1,066	0
		アウトバウンド	415			250	
7月	07.01~07.31	インバウンド	12,225	5,231	6,994	6,441	135
		アウトバウンド	521			343	
8月	08.01~08.31	インバウンド	7,308	1,691	5,617	5,447	34
		アウトバウンド	3,350			2,298	
9月	09.01~09.30	インバウンド	6,307	1,445	4,862	4,781	4
		アウトバウンド	2,434			1,693	
月別合計		インバウンド	77,794	28,607	49,187	44,601	1,611
		アウトバウンド	17,150			11,307	
		合計	94,944			55,908	

4. コールセンターの運営現況

「京畿・超低信用貸付」事業では、円滑な業務遂行のためコールセンターを運営しており、貸付対象・資格要件・必要書類・予約受付方法・地域センターの所在地などを案内すると共に、予約が困難な高齢者などの予約受付を代行するなど、貸付受付業務の支援を行っている。

2021年3月から9月までの約7ヶ月間における月平均コール数は約13,000件で、月平均でおよそ8,000件の貸付関連案内および民願業務処理を行った。

5. 事業遂行結果

低所得や低信用によって生活費・住居費・医療費などが不足する生計危機、制度金融を利用できないことによる不法私金融被害、未就業または失業、非正規勤労による低所得信用危機青年、および学資金貸付延滞者である若者世代を対象に低利少額貸付の支援を行うことで、家庭経済危機の克服と再起の基盤を提供した。

基本的な生活苦に加え、債務問題により大きな困難や苦痛を抱える低所得の脆弱階層に対し、低利貸付支援、債務・財務相談、福祉サービス連携提供などの個別型金融福祉相談サービスを提供することで、家計の債務構造改善に大きく貢献した。

6. 今後の推進計画

○ 事後管理専任チームの運営を通じた貸付管理・個別相談実施

- (1) DM発送：貸付案内状および遂行機関（ローリング・ジュビリー）案内状 → 定期（年2回）、随時
→ 借入者と持続的な関係を維持、事例・返済管理など総合的な事後管理推進
- (2) インバウンドの相談者を対象に基本相談（負債などの財務状態）の案内・実施
→ 遂行機関の相談サイト（イントラネット）登録および相談案内
- (3) カウンセリング後、事例管理対象者支援・福祉事業連携支援
→ 債務調整・回生・破産支援、福祉サービス連携、就業・起業サポート、債務減免など

7. 補完・改善方案

- (1) 一時的な低利少額貸付のみでは低信用者・低所得層の経済的再起が難しいため、安定的な消費支出の習慣化を目的とした金融・財務コンサルティングなど関連教育支援を通し、経済的自立の意志を高める持続的な関心および金融教育システムの構築が必要といえる。
- (2) 貸付の体系的な管理を目的としたシステム構築、借入者を対象とした債務相談・事例管理・福祉連携などの総合的な事後管理内容を記録・管理し、D/Bを構築する効率的な方案が必要とされる。
- (3) 貸付の返済方法が元金および利子が5年満期の一括返済であるため、貸付金の支給後に返済に対する関心が薄れることから、回収資金を利用した低信用者への再貸付が難しくなることが予想され、借入者に対する持続的な関心および自発的な返済を促す体系的な事後管理が求められる。
- (4) 貸付審査対象の低信用者・低所得層に対して関心を持ち、金融福祉相談に関する専門的な知識を身につけることで、貸付審査だけでなく債務・財務相談にも対応できるスキルを習得することが求められる。
- (5) 現在1回支援される低金利少額貸付では家計の長期的な債務構造の改善が難しいため、信用管理教育を通して信用改善をサポートし、金融福祉および信用相談を通じ多重・過剰債務者の債務調整に向けた相談をすることで信用の回復を図ると共に、制度圏に参入できる積極的な相談が必要とされる。

2021年「京畿・超低信用貸付」事業

事務局長 チェ・ヒョンウク



사단 법인 롤링주빌리
ROLLING JUBILEE